

Z企画 笑福終活サロン

落語題材に終活考えるイベント

相続のプロによるトークセッションも

東京都練馬区のIMAホールで6月26日、古典落語を楽しみながら終活について考えるイベント「笑福終活サロン」が開催された。同イベントは保険健全化推進機構結心会代表理事の上野直昭氏と、イベント等PRを手掛ける(株)ウィンダム代表取締役社長の橋川徳夫氏、金融教育やセミナー事業を行うZ企画(株)代表取締役CEOの尾崎幸氏が企画したもので、Z企画の主催で今回初めての開催が実現した。イベントの第一部では三遊亭小遊三さんとその弟子の三遊亭遊喜さんが落語を披露し、第二部では「少子化時代の終活」子供に迷惑をかけないために「？」をテーマに、遺言書や不動産など相続のプロフェッショナルによるトークセッションが行われた。



尾崎氏



上野氏(左)と橋川氏

第一部では三遊亭遊喜さんが古典落語「片棒」を披露し、その後師匠の三遊亭小遊三さんが「崇徳院」を演じた。「片棒」は、ケチな商店主が自分の葬儀の出方を三人の息子に問うことで、誰を跡取りにするか考えるという話。上方落語における別題「赤螺屋(あかいらや)」はけちを意味する。「崇徳院」は、偶然出会った見知らぬ娘を忘れられない大店の若旦那がその娘を探す物語。続く第二部では、(株)円満家族プランニング代表取締役社長の富田英志



トークセッションで話す遊喜さん(左)と小遊三さん

氏、(株)リムスキャピタル営業コンサルティング部長の長小野寺大樹氏、(株)ナ・エス・エリート営業課長の岡田太一氏が、尾崎氏と上野氏、小遊三さん、遊喜さんと共に登壇して少子化の時代における終活について話し合った。相続・承継の計画作成に特化した事業を展開している富田氏は、一人っ子家庭における相続の事例などを紹介し「自分が亡くなった後に家族がどうなるかを経験している人は少ない。家族の人数や資産の多寡にかかわらず、専門家に相談しながらさまざまなリスクを複合的に考えて相続の準備を進めてほしい」と述べた。

相続診断士の肩書を持ち、不動産コンサルティング業務を行う小野寺氏は、遺産分割の四つの方法などについて話した。

またこれらの話を受けて上野氏は、「保険は人が亡くなることを前提に売られる商品。相続問題をアロに頼る際には、無料気軽に相談できる保険代理店の募集人なども検討してほしい」と述べた。

自身も家族の相続で苦労した経験を持つという尾崎氏は、イベント終了後の取材に対し「お客さまの楽しんでいる様子を見ることができ、開催して良かったと感じている。多くの人に相続の問題を自分事として捉えてもらうために、今後も同様のイベントを企画・開催していきたい」と話した。

氏、(株)リムスキャピタル営業コンサルティング部長の長小野寺大樹氏、(株)ナ・エス・エリート営業課長の岡田太一氏が、尾崎氏と上野氏、小遊三さん、遊喜さんと共に登壇して少子化の時代における終活について話し合った。

相続・承継の計画作成に特化した事業を展開している富田氏は、一人っ子家庭における相続の事例などを紹介し「自分が亡くなった後に家族がどうなるかを経験している人は少ない。家族の人数や資産の多寡にかかわらず、専門家に相談しながらさまざまなリスクを複合的に考えて相続の準備を進めてほしい」と述べた。

相続診断士の肩書を持ち、不動産コンサルティング業務を行う小野寺氏は、遺産分割の四つの方法などについて話した。

またこれらの話を受けて上野氏は、「保険は人が亡くなることを前提に売られる商品。相続問題をアロに頼る際には、無料気軽に相談できる保険代理店の募集人なども検討してほしい」と述べた。

氏、(株)リムスキャピタル営業コンサルティング部長の長小野寺大樹氏、(株)ナ・エス・エリート営業課長の岡田太一氏が、尾崎氏と上野氏、小遊三さん、遊喜さんと共に登壇して少子化の時代における終活について話し合った。

相続・承継の計画作成に特化した事業を展開している富田氏は、一人っ子家庭における相続の事例などを紹介し「自分が亡くなった後に家族がどうなるかを経験している人は少ない。家族の人数や資産の多寡にかかわらず、専門家に相談しながらさまざまなリスクを複合的に考えて相続の準備を進めてほしい」と述べた。

相続診断士の肩書を持ち、不動産コンサルティング業務を行う小野寺氏は、遺産分割の四つの方法などについて話した。

またこれらの話を受けて上野氏は、「保険は人が亡くなることを前提に売られる商品。相続問題をアロに頼る際には、無料気軽に相談できる保険代理店の募集人なども検討してほしい」と述べた。

氏、(株)リムスキャピタル営業コンサルティング部長の長小野寺大樹氏、(株)ナ・エス・エリート営業課長の岡田太一氏が、尾崎氏と上野氏、小遊三さん、遊喜さんと共に登壇して少子化の時代における終活について話し合った。

相続・承継の計画作成に特化した事業を展開している富田氏は、一人っ子家庭における相続の事例などを紹介し「自分が亡くなった後に家族がどうなるかを経験している人は少ない。家族の人数や資産の多寡にかかわらず、専門家に相談しながらさまざまなリスクを複合的に考えて相続の準備を進めてほしい」と述べた。

相続診断士の肩書を持ち、不動産コンサルティング業務を行う小野寺氏は、遺産分割の四つの方法などについて話した。

またこれらの話を受けて上野氏は、「保険は人が亡くなることを前提に売られる商品。相続問題をアロに頼る際には、無料気軽に相談できる保険代理店の募集人なども検討してほしい」と述べた。

明治安田生命

県内在住の親子ら149人が植樹活動

山梨で「明治安田×Jリーグの森」実施

明治安田生命は5月10日、山梨県笛吹市の「Present Tree in 笛吹川」で「明治安田×Jリーグの森 親子植樹イベント」を実施し、県内在住の親子やJリーグ・ヴァンフォーレ甲府関係者などが「ブナ」「ミズナラ」などの地元の植

生に合わせた広葉樹の苗木の植樹に取り組んだ。同社は、2023年7月に「Jリーグ気候アクションパートナー」契約を締結し、人々の暮らしを支え、豊かな恵みをもたらす日本の森林を未来世代につないでいくため、「明治安田×Jリーグ

の森」未来をつむぐ森」における森づくりをスタートした。その一環としての植樹イベントは、昨年に続き2回目の開催となる。今年度は応募が約40人増え、山梨県在住の親子等149人が参加。ヴァンフォーレ甲府選手OB(クラファンバサダー)の小椋祥平氏



参加者は合計471本の苗木を植樹



ヴァンフォーレ甲府選手OBの小椋氏も参加

マツの伐採跡地に地元植生の広葉樹を植え、100年先の世代に受け継がれる水源地を育てる「Present Tree」のプロジェクト(認定NPO法人環境リレーシヨンス)が主催し、植樹イベントに取り組み今回の活動

は、大変意義のあることと「山梨での森林保全活動を今後も継続していきたいと考えており、応援いただきたい」と意気込みを語った。

続いて、中央森林組合からの植樹指導を受けた参加者が、鍬で土を掘り「よいしょ」と声をかけ合いながら、ブナやミズナラ等地元の植生に合わせた広葉樹4種類、471本の苗木を植えていった。

参加した親子からは、「緑が豊かになる」と、閉会式では同社執行役員北陸・甲信越地域

は、大変意義のあることと「山梨での森林保全活動を今後も継続していきたいと考えており、応援いただきたい」と意気込みを語った。

続いて、中央森林組合からの植樹指導を受けた参加者が、鍬で土を掘り「よいしょ」と声をかけ合いながら、ブナやミズナラ等地元の植生に合わせた広葉樹4種類、471本の苗木を植えていった。

参加した親子からは、「緑が豊かになる」と、閉会式では同社執行役員北陸・甲信越地域

は、大変意義のあることと「山梨での森林保全活動を今後も継続していきたいと考えており、応援いただきたい」と意気込みを語った。

最新 IFRS 保険契約

理論と仕組みを徹底分析

改訂増補版

有限責任監査法人トーマツ 著

ISBN978-4-89293-484-1

●A5判・522頁

●定価 4,950 円(税込)

送料 660 円(税込)

(2024年12月刊)

2024年IFRS第18号、2022・23年IFRSIC議論、2022年米国税務会計基準審議会「売却された契約の経過措置」にも言及したIFRS第17号保険契約の最新解説書

お申込みはFAXまたはWebで

FAX 03-5816-2863 https://www.homai.co.jp

保険毎日新聞社

東京都台東区台東4-14-8
シモンパークビル2F 03-5816-2861